

第4回（仮称）市民自治を考える懇話会会議録要約

○日 時	平成18年11月18日（金）午後7時～9時
○場 所	大阪狭山市役所 別館1階 第3会議室
○出席者	（委員）14名（欠席16名） （事務局）6名 （サポートスタッフ）5名

会議内容

議題1 グループ討議

議題2 グループ発表

前回、前々回は「自治会」の話を中心に話し合いを行ってきたが、今回は、もう少し違った視点から話ができたらということで、「さやまが好きですか。」をテーマに話し合った。

◎「狭山」が好き

- 狭山に住んで28年になるが、狭山が大好きである。以前は、泉北ニュータウンに住んでいたが、馴染めなかった。
- 生まれたときから狭山に住んでいる。小学校以降の変化が激しかった。便利になったが、いい面と悪い面がある。人と人とのかわりが薄くなってきている。近所つきあいが希薄である。
- 狭山は、誇れるまちである。
- ニュータウン開発にあわせて、大阪市内から引っ越してきた。「なんと不便なところに来たんだろう。」と思ったが、狭山の発展とともに、自分も成長してきたと感じている。教育環境に恵まれているというイメージを持っている。結婚して、自分の子どもを自分の育った環境で育てたいと思い、狭山に帰ってきた。
- 狭山は、緑が多いところであると聞き、転入してきたが、陶器山周辺の開発により自然が減ってきている。
- 適度に自然が残り、適度に便利なまち。
- 医療、教育などの環境が整っているから引っ越してきた。

◎地域活動

- 防犯委員をやっている。狭山が好きだからやっている。子どもの通学の見守り隊をやっているが、登録制になっているが登録していない。登録するとやめたいときにやめられ

ない。でも、やりだしたらやりがいもあり、やめられない。こどもにも遠慮せずに怒る。
親からは、いじめていると誤解されることがある。

- アンケートの結果、婦人会がなくなった。それまでは、旅行したり、会館で話したりしていた。婦人会がなくなり、集まる場がなくなったことが残念。
- 祭りやイベントの役員を見ても、いつも同じ顔ぶれである。
- 自治会活動にもっと若い人が出てきてほしい。
- 自治会、PTA、子ども会などの横の連携があればいい。
- 地域一斉清掃を12月にニュータウンの自治会が相談して連合してやろうという話がある。これも市が財政難のため出てきた話で、財政難も悪いことばかりではない。
- 日本の社会には、パブリックの概念が欠けているように思う。

◎近所づきあい

- 人と人の関わりが希薄だと思うのは、自分からその輪の中に入っていくからだと思う。
- もし自分が倒れたら、すぐに気づいてくれる隣近所のつきあいがあるか。
- 隣の住民が困っているとき、できることがあればやってあげたいという気持ちがあるが、相手から自分たちの生活に介入してほしくないという思いも感じた。人情が薄くなったことと、個人のプライバシーを大切にすることは表裏一体なのかもしれない。

◎世代間交流

- 世代間の考え方の隔たりがある。考え方の違いをぶつけ合い、すり合わせていかないといけない。
- だんじりによって、世代間の交流が生まれる。
- 世代から世代へ申し送りしていくことが必要。世代間で役割分担を話し合うことも必要ではないか。

◎人口減少、高齢化問題について

- ニュータウンでは2代目の若い世代がまちを出て行って帰ってこない。また、新しい住民が増えない。(狭山だけの現象ではない?)
- 旧地区は、同居が多い。
- 平日のスーパーで買い物をする男性の高齢者が目立つ。
- 若い人が帰ってこないのは、このまちで暮らすのがいやだからではなく、仕事の関係が大きいのでは。
- かつては、ニュータウンにも活気があった。若い人が住みたいと思うまちにならないと活気が生まれない。明るい未来があってこそ、みんなの元気が出る。

- ニュータウンの小学校の生徒数が減っている。いずれ、統合されるのでは。自分が通っていた頃は、昔は1,000人以上いた。

◎総合計画、まちづくりの方向

- さやまが変わるのがいいのか、変わらないのがいいのか。これからも、このまちが存在しているのか。
- 第三次総合計画がまちづくりの指針として策定されているが、いまのまちづくりの方向がよく分からない。
- ベッドタウンとして、宅地開発を進めるのか。
- 陶器山の自然が破壊されつつある。行政で市民の憩いの場として買い取ることはできないか。
- 総合計画を見直す必要があるのではないか。
- 総合計画は、十年単位でまちづくりの指針として策定されるものであり、次の総合計画の策定に向けて、市民の思いがより反映できるよう、今から市民が入って考えていく必要がある。
- 大阪狭山市には、南北問題がある。南部の地域は北部地域を、北部地域は南部地域のことがよく分からない。総合計画やまちづくりを考える場合も幅広い地域からの参画を図るべきである。
- 総合計画があるのに、市民のほとんどは関心がない、知らない。他人任せで自分の関心があることしか興味を示さない。でも文句だけは言う。みんなで考えていくためにどんな仕組みやルールが必要なのか。
- 市民がお互いの情報を共有することにより、自分たちのまちづくりを進めるきっかけとなるように思うが、狭山にはまだない。

◎市民の声や思いを活かす仕組み

- 市民の思いが市の方針につながっていないのではないか。
- 地区長会を通じて、市民の思いが伝えられるのではないか。
- 市民の声を反映する仕組みづくりが重要である。
- 情報が市民の側に届いていないのではないか。
- 地域によって、どのようなまちを望んでいるのか、それぞれ違う。地域ごとにまちづくりを進め、市が全体をまとめて反映させていくのがいいのではないか。
- 自治会以外にも、市民一人ひとりが意見を言える場があればいい。
- いろいろな地区から集まって話し合いができればよい。

◎「協働」とは？

- 「協働」の意味が分からない。多くの市民に分かるようにする必要がある。
- 「市民自治」とは何か。「自ら治める」とはどういうことか。
- 地域が特性に応じて考え、話し合っ、まとめたものをだしあって、市民がまちづくりを進めていくことが「協働」のまちづくりである。

◎自治基本条例

- 自治基本条例は、市民が守るべきこと、市民がどんな役割を担ってまちづくりに参加していくのかといったことなど、市民一人ひとりの役割を、市民憲章的なものとしてルール化していくことも必要である。
- モラルの低下、迷惑行為に対して歯止めをかけるような内容を持った自治基本条例が必要である。
- 思いやり、お互いの気持ちを汲み取るようなことも条例に盛り込むべきである。それによって、市民が、狭山はいいところだと思えるような自治基本条例になればいい。
- お互いが自制しながらやっていくことで、それが地域のルールになっていく、市全体のルールになっていけばうまくいく。それが市民自治であり、ルールができあがれば、市民が自分勝手に動かない、周りのことを考えていくはずだが、それがうまくいっていないのはどこに問題があるのかを考えていくと、市民自治が見えてくる気がする。

◎会議の進め方

- どういうテーマで深めていくのか整理が必要な時期である。
- 事務局で意見を整理してもらって、もう少し議論すればよいのでは。
- 事前にテーマを提示していけば、議論を深めたい。
- 議論のテーマを限定してしまうと、興味のある人はいいが、で興味を持っていない人は意見を言えなくなる。もう少し、いろんな人と話をしたい。
- 先生方の話を聞きながら、言いたいことをいえる柔らかい場にしてみようと、普通のお母さんや十代の人にも参加してもらえるのでは。
- 地区長会や第三次総合計画のことを知らない人もいる。全員の知識レベルをそろえる、話し合いの土台になるような勉強会を開いてほしい。

議題3 全体まとめ

- 議論していかないといけない点が二つある。地域の中で、狭山市の中で、思いの違う人、価値観の違う人と暮らしていかなければいけない。そのときにどうしたらいいのか。一番小さな単位では自治会、ご近所。6万市民の意見も違う。価値観をどうすり合わせていくのか。すり合わせなくていいのか。
- もう一つは、わたしたちのささやかな思いが、どうして市の大きな方針になっていかな

いのか。そのための仕組み、仕掛けをどうやって作っていけばいいのか。そういうことを、具体的な事例をもとに考えていけばいい。

次回は、その辺の参考になるような話をしたい。

議題4 その他

◎次回の司会進行

○次回の司会は、松嶋委員と西澤委員にお願いする。